



2026年6月17日

各 位

会 社 名 AZ-COM丸和ホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 和佐見 勝  
(コード番号: 9090 東証プライム市場)  
問合せ先 取締役専務執行役員経営戦略グループ長  
藤田 勉  
(TEL 03-3261-1000)

## 取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目的として、2025年度における取締役会の実効性に関する評価を実施いたしましたので、その結果の概要を下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 評価の方法

社外役員を含む全ての取締役及び監査役に対し、取締役会の実効性に関する評価の主旨を説明の上、匿名性と透明性を確保するため、外部機関によるWebアンケートでの調査、回収、集計、分析を行いました。なお、質問につきましては、以下の項目に関して評点及びフリーコメントによる方法で実施いたしました。

##### 【主な質問項目】

- ◆取締役会の構成に関する質問
- ◆取締役会の運営に関する質問
- ◆取締役会の議論に関する質問
- ◆取締役会のモニタリング機能に関する質問
- ◆社内外取締役のパフォーマンスに関する質問
- ◆取締役・監査役に対する支援体制に関する質問
- ◆役員に求められているトレーニングに関する質問
- ◆株主との対話に関する質問
- ◆委員会の運営に関する質問

#### 2. 評価結果の概要

##### (1) 総合評価

本年度の取締役会実効性評価においては、質問項目全般にわたり概ね適切であることが確認され、当社取締役会の実効性は適切に確保されているとの評価結果となりました。

##### (2) 前年度課題への対応状況

昨年度の評価において課題として認識された2025年度を初年度とする中期経営計画の着実な遂行を支えるモニタリング体制の強化及びグループ会社におけるガバナンス状況の監督については、取締役会における継続的な進捗確認や情報共有の充実等を通じて、それぞれ一定の改善が見られたことを確認いたしました。

##### (3) 今後の課題認識

取締役会のさらなる実効性向上を図る観点から、経営上重要性の高い議題に審議を集中させるための取締役会運営の見直しや重点的にフォローすべき事項に対する継続的なモニタリングの強化が必要であるとの認識を共有いたしました。

また、重要な投資案件やM&A案件については、事業戦略との整合性、資本コスト・資本効率を踏まえた投資効果、シナジー創出の可能性及び想定リスク等について、取締役会において、より多角的かつ深度ある審議を行う必要があるとの認識を共有いたしました。

### 3. 実効性向上に向けた今後の取り組み

#### (1) 重要経営課題に関する議論の充実に向けた取締役会運営の見直し

経営上重要性の高い議題に取締役会の審議を集中させる観点から、取締役会に付議すべき事項の基準及び執行側への権限委譲範囲の見直しを進めるとともに、上程案件に関する情報提供の充実を図り、取締役会における議論の質の向上に取り組んでまいります。また、重点的にフォローすべき事項については、対応状況や進捗等を継続的にモニタリングし、取締役会による監督機能の強化を図ってまいります。

#### (2) 投資判断・M&A案件に関する審議の充実

重要な投資案件やM&A案件については、事前説明や情報交換会等を実施し、案件に関する理解促進を図るとともに、業務執行側に設置している委員会等における検討内容や主要論点を社外取締役及び社外監査役へ適時・適切に共有することで、事業戦略との整合性、資本コスト・資本効率を踏まえた投資効果及びシナジー創出の可能性等に関する議論の充実並びに事前理解の深化を図ってまいります。

当社取締役会は、これらの取り組みを通じて実効性の継続的な向上を図り、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を目指してまいります。

以 上